



施設での看取りをお考えの方へ

～安らかな最期を迎えるために～

医療法人 河和会

パークサイドなごみ

安らかな最期を迎えるために

人生の最期の時を施設で迎えるか、病院で迎えるか…答えのない問いに悩んでおられるご家族様もいらっしゃると思います。家族や、大切な人たちの「死」や「人生最期の時の過ごし方」について、当施設での看取りをご検討される際は、是非こちらをご参照ください。

何かのご縁で当施設をご利用いただき、「人生最期のとき」をご本人はじめ、ご家族が安心して迎えることが出来ますよう、ご本人が旅立たれるときの症状の変化や施設での看取り介護の現状を綴ったのがこのパンフレットです。

施設で看取りをご希望された際でも、ご家族のご協力が、安らかな最期を迎えるためには最も重要となります。ご家族により安心して最期の時に関わって頂けるように、旅立ちに至るまでに見られるお身体の変化を予め知り、理解していただくことが大切な事であると考えます。

その変化は看取りの時期を迎えた全ての方に見られるわけでも、また必ずしも順序通りに起こるわけでもありません。大切なのは、これから説明させていただく変化が、旅立ちに至るまでの自然な経過であると言う事です。

看取りに関する事で分からない事や、不安な事はいつでもスタッフにご相談ください。



1. 旅立ちが近づいている時の状態と、施設でできる事

1. 目を閉じ、眠っている時間が多くなります。
→出来る限り、ご本人のペースに合わせて対応できるようにします。
2. 食欲が低下し、食べたり飲んだりする量が減り、時には全く食べられなくなります。
→ ご本人が口にしたいと希望される物を召し上がっていただけるようにします。
(無理に召し上がっていただく事はいたしません。)
3. 時には穏やかでなくなり、不明瞭な言動や大声を上げるような事もあります。
→ そばに付き添い、穏やかに優しく声をお掛けし、見守ります。気分が落ち着くように、ご本人のお好きな音楽を流すことも可能です。
4. 便や尿の失禁が見られます。
→ 手足の筋力が低下するように、便や尿を排泄する筋力も低下するために、失禁が起きます。状況に応じて排泄介助を実施させていただきます。



5. 唇や皮膚が乾燥します。唾液や痰が溜まり、呼吸の際にゴロゴロという音が聞かれます。

→ 水分量が少ないため、脱水の状態です。痰が絡んで苦しそうな時は、痰の吸引をします。お口の中が乾燥したら、濡れたガーゼ等で湿らせたり、少しずつ水分補給をします。

6. 手足が冷たくなり、白～紫色になってきます。そして身体の下になっている皮膚も紫色になって床ずれになることもあります。

→ 血液の流れが悪くなってきます。定期的にお身体の向きを変えたり、必要に応じてエアマットの使用をします。手足の冷たさが気になる時は、電気毛布などの使用もします。

7. 呼吸は変化しやすく、不規則になります。呼吸がしばらく止まったり、あごを持ち上げるような呼吸がみられます。

→ 苦しそうな表情であれば、血液中の酸素濃度を測定し、ご希望により酸素流入は可能です。

8. 呼びかけに反応がなくなります。

→ 耳の機能は最後まで保たれると言われています。ご家族の声掛けはご本人に聞こえています。



2. 施設で出来る医療行為について

◎点滴

お口から水分を摂る事ができなくなった時、ご家族のご希望により点滴を実施できます。しかし、最期の時を迎えている方にとっては、点滴はメリットもありますがデメリットも多くあります。

【メリット】

水分補給ができるため、少し活気が見られるようになることもあります。

【デメリット】

- *点滴をしてもうまく身体の中で水分をうまく利用できない状態であり、排泄する力が弱ってきているので、おしっこがしっかりと出なくなり、全身がむくんでいきます。
- また、むくみだけでなく、身体に吸収できなかった水分が皮膚から出てくる事もあります。
- *点滴で補給した水分が、お腹や肺、心臓に溜まり、呼吸が苦しくなることがあります。
- *点滴の針を刺すことで、皮下出血(青あざ)になりやすくなります。

【点滴の種類】

水分を補う点滴のみです。微量に栄養分も入っていますが、生命を維持出来る程の栄養は補えません。

【実施できる量】

1日 500ml~1000ml それ以上は実施できません。

【点滴を終了するとき】

血管がもろくなっており、なかなか点滴が入らなくなります。点滴をする為に何度も針を刺す事は、ご本人にとっては苦痛を伴う事です。

1日何度かトライしても、点滴が実施できない場合は、その日は点滴をお休みします。それが数日続けば、施設医と相談し、点滴を終了します。

また、点滴を実施しても、直ぐに補液が漏れてくる事が続くようであれば、同様に施設医の指示の下、点滴を終了します。

また、ご家族の希望による終了も可能です。



◎酸素流入

血中の酸素濃度が下がり、ご本人に苦痛を伴う様であれば、酸素の流入を実施します。

◎痰の吸引

最期の時が近づいてくると、唾液や痰が溜まって、喉の奥でゴロゴロと音がする事があります。痰が溜まってくれば、吸引をして取り除きます。お身体の状態により、出血しやすくなったりしているのであれば、施設医の指示を受けた看護職員の判断で中止する事もあります。

◎痛み止めの使用

苦痛を取り除くという観点から、痛み止めの使用は行います。病院ではなく施設であるため、お口から飲んでいただける痛み止めのご用意のみとなります。

◎睡眠薬の使用

最期の時が近づいてくると、昼と夜が逆転してしまう事がありますが、それも自然な事です。ご本人が夜間に眠れず、辛そうであれば、緩やかな効き目のお薬を使用する事も可能です。

◎末期がんの方の痛みの管理

がん末期の方については、「がん性疼痛」と言う痛みを感じる事があり、がん患者の70%が痛みを経験するといわれています。その痛みは身体的苦痛だけでなく、ご本人の生活に心理的・社会的・精神的にも大きな影響を及ぼします。

鎮痛剤を適切に使用することによってコントロールできるとされています。

施設医、協力医療機関の医師の指示の下、お口から飲んで頂けるお薬や、貼るタイプのお薬(痛みを取る麻薬も含む)を使用する事も可能です。



3. 施設スタッフの関わり



施設医

最期の時を迎えておられる状態である事の診断をし、
ご本人やご家族にその説明をします。
日々の診察を行います。医療的処置やケアについて指示をします。
ご本人の状態について、ご家族に説明をします。
死亡確認及び死亡診断書等の関係書類の作成をします。



介護職員

ご本人の意向に添って出来るだけ柔軟に対応します。
生活面のお手伝いについては、ご本人に不安や苦痛を
与えないようお声掛けや方法をさせていただきます。
ご本人の不安や恐れに寄り添えるようにします。
ご家族にご本人の日々の状態をご報告します。
ご家族が付き添いしやすいような環境を整えます。



看護職員

日々の状態を観察し、施設医の指示の下、必要な
医療処置を実施します。ご本人の状況をご説明さ
せていただきます。ご本人やご家族の不安や苦痛
を和らげる事が出来るよう、お話しをします。
ご本人の苦痛を出来る限り和らげる事が出来る
よう、生活面の対応します。



リハビリスタッフ

ご本人の希望や能力を観察しながら、リラクゼーションや関節のこわばりを防いだり、むくみを軽減できるようリンパマッサージを実施します。

ご本人の体調を考えながら出来るだけ日常生活と同じように、フロアに出ていただいたり、外気浴を取り入れます。

また、ご本人が穏やかに過ごす事が出来るよう、リラックスしてベッドで横になったり、楽に車椅子に座ることが出来るような体勢を、フロアスタッフと考え、実践します。



管理栄養士

ご本人の状態を観察しながら、食事の提供量や形態を考え、出来るだけお口から食事をとっていただけるように対応します。提供した食事を召し上がる量が少なくなった時は、状況に応じて補食を提供します。ご家族が持参された、飲食物をご本人が召し上がりやすいように加工します。



事務スタッフ

(事務員・支援相談員・ケアマネ)

施設で行っているケアについて、ご家族にご説明します。最期の時に必要な備品等でご本人やご家族にレンタル(エアマット、リクライニング車椅子等)をして頂く必要があるものに関して、業者との調整をします。

必要な物に関して、ご本人やご家族で準備していただくべき物でないものについて、施設での用意が可能か、柔軟に対応していきます。今後の段取りなど不安なことについて伺い、希望に添って提案します。

4. ご家族に関わっていただきたいこと



• 出来るだけ、時間を作って面会にいらしてください。

*通常の面会時間は 9:00~20:00 となっておりますが、ご本人の状態やご家族の事情に合わせて、柔軟に対応します。

*お電話等でのご報告もさせていただきます。施設からのご連絡が多くなると思います。お電話に出られない場合も、折り返しのご連絡をいただきますようお願いいたします。

*ご状態に変化があれば、昼夜を問わずご連絡をいたします。出来る限り連絡がつくようにしていただきますよう、よろしくお願いいたします。

• ご本人の皮膚の状態が悪くなったら、床ずれになってしまう恐れがあります。その場合は、エアマットのレンタルをお願いすることがあります。その際の契約やお支払い等をお願いいたします。

*必要になった際、都度ご家族にご相談差し上げます。

• ご本人が施設で提供する食事を摂れなくなった際、お口にしやすいもののご持参をお願いする場合があります。また、ご本人がお好きだったものなど、お口にしていだける間に召し上がっていただきたいと考えていますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

• 「ご家族と施設の交換ノート」を準備し、ご本人のベッドの側に置いております。日々の些細な様子を記載しています。内容を見ていただき、普段の様子を知っていただくと共に、ご面会の際のご本人の様子や発言を記載いただければと思います。

• 当施設では、最期の際にご家族にも関わっていただきたいと考えています。ご家族のご希望があれば、日々の介助をご家族にお手伝い頂くことも可能です。こちらからお声をおかけすることもあります。

• 看取りのケアの開始時、その後はご本人の状態に変化があった際、必要に応じて各職種が集まり、会議を実施します。その場ではご本人の現状や今後の見通し、ケアの方法について話し合いをします。ご家族様の思いをスタッフに直接お話して頂きたいので、お忙しいとは思いますが、出来るだけ参加の程、よろしくお願いいたします。

*その他、ご希望や不安なことがあれば、スタッフにお声をおかけください。出来る限りの対応をさせていただきます。

5. ご家族にご準備いただきたいこと

大切なお身内がこのような状態になられ、混乱されたり不安に思っておられる事と思います。そのようなときに、これからの事を考えていただくようお願いは、お辛いことかもしれませんが、ですがその時が突然訪れたときに、慌てることのないようご準備いただきますようお願いいたします。

- ご親戚、知人の方など会っていただきたい方がいらっしゃる場合は、意識があり、お話ができるうちに、早めにお知らせをして頂くことをお勧めしています。

- 最期の時にご本人の傍にすることが出来るよう、あらかじめ亡くなられた時に着ていただく衣類や愛用の化粧品等あれば、ご準備ください。

*施設で浴衣のご用意もできます。(別途料金が掛かります。)

- ご葬儀をどのようにされるか、お帰り先(自宅や会場)など、ご家族でご相談なさってください。



6. さいごに

施設での看取りを希望されるまでに、迷い悩まれたことと思います。

ご本人が住み慣れたこの施設で、最期のときを安らかに迎えることが出来るよう、施設のスタッフ全員で、見守り対応していきたいと思っています。

ご本人が穏やかに最期のときを迎えるためには、ご家族の看取りケアに対するご理解やご協力が必要であると考えています。

ご家族とご一緒に、出来る限り精一杯対応していきたいと考えています。

医療法人 河和会 パークサイドなごみ
終末期ケア委員会

